

## 心で結ばれる新しい契約

### 【聖書】 エレミヤ書31章31～34節

見よ、わたしがイスラエルの家、ユダの家と新しい契約を結ぶ日が来る、と主は言われる。この契約は、かつてわたしが彼らの先祖の手を取ってエジプトの地から導き出したときに結んだものではない。わたしが彼らの主人であったにもかかわらず、彼らはこの契約を破った、と主は言われる。しかし、来るべき日に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこれである、と主は言われる。すなわち、わたしの律法を彼らの胸の中に授け、彼らの心にそれを記す。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。そのとき、人々は隣人どうし、兄弟どうし、「主を知れ」と言って教えることはない。彼らはすべて、小さい者も大きい者もわたしを知るからである、と主は言われる。わたしは彼らの悪を赦し、再び彼らの罪に心を留めることはない。

### 【序】 過去を振り返り

米国のロスアンジェルス近郊で暮している長女かおりと孫のサブリーナが夏休みで4年振りにやってきました。サブリーナは近所の月越小学校3年1組に2週間の体験入学の機会を与えられました。水曜日が参観日だったので、1時間目国語の授業を参観しました。小学校の教室に入ったのは30年以上も前のことだったでしょうか。教室自体が廊下との区切りがなく、オープン構造で驚きました。きっと教育内容も私たちの時代とは大きく変わっていることでしょう。

私たちの時代には、学校の校門を入ると、玄関との中間に**奉安殿**という神社の神殿のような造りの建物があり、天皇皇后の写真と教育勅語が収められていました。誰でもがその前で帽子をとり**最敬礼**をしなければ厳しく叱られました。歴史の授業は初代神武天皇から昭和天皇まで124代の名前を暗誦することから始まりました。日本は2600年以上も続いてきた**万世一系の天皇**を戴く世界唯一の素晴らしい国なのだから、この天皇様を**神と崇めて**忠義な国民にならなければならないと繰り返し教えられました。

時代は**15年戦争**のただなかで、台湾、朝鮮に続いて、満州、支那、東南アジア、太平洋に侵略を拡大して負け戦になり、遂に沖縄を占領され、原爆二発を投下されて**無条件降伏**。連合軍の占領支配を受けるに至りました。3ヶ月にわたる沖縄戦の悲劇については先ほどもDVDで学び、祈りを共に捧げたところです。

日本は破壊の中から**新しい歩み**を始めました。政治・経済・そして教育も大きく変わりました。その**変化の象徴**が戦争放棄を誓った**平和憲法**の制定でした。しかし戦後**68年**過ぎますと、戦前の歴史観に基づく日本人としての誇りを持って、憲法を改正しろという政治家の声が大きくなってきました。彼らは15年戦争で犯した、他国民に対する**数々の恐ろしい罪**をどのように反省しているのでしょうか。

## [1] 神の契約を破った神の民

私たちが今月学んできている旧約聖書の預言者エレミヤも、紀元前 1000 年に始まるダビデ王国が 413 年後に滅び、バビロンの捕囚となる**歴史的悲劇**を経験した一人でした。滅亡に向かう王国の末期に、**神の裁き**による国の敗北・破壊を、人々の嘲笑、迫害を受けつつ、孤立無援の中で預言し続けたのです。そして**歴史**は彼の預言通りになったのでした。

旧約聖書に記された**神の民イスラエルの歴史**は**アブラハム**に始まります。紀元前 2000 年頃のこと、彼は地上の**すべての民の祝福の源**となるという神の言葉に従って、文明の発祥地メソポタミア地方からパレスチナ地方に移住しました。三代目ヤコブの晩年に大飢饉が起こり、一族はエジプトに避難します。其処で人口 200 万の民族に成長しましたが、エジプトの王朝が変わり奴隷扱いを受けるようになりました、そこで**モーセ**の指導の下にエジプトを脱出し、パレスチナに戻ってきます。その途中シナイ山の麓で、神の民として生きる**契約書**として**律法**を授けられました。

彼らは石の板二枚の記された律法(モーセの十戒)を大切に箱に入れて担ぎ、荒野の旅を 40 年続けました。そして**ダビデ王朝**が確立しエルサレムに都を定めると、**神殿**を建てて神の箱を安置し、朝に夕に礼拝を捧げるようになりました。しかし諸民族との交流が広がるにつれ、彼らの拝む神々をも一緒に拝む者が増えてきました。

神さまが結んでくださった**契約書十戒**が記された石の板が、エルサレムの神殿に安置されていることで、神の特別な民である**しるし**のようになってしまい、**神の民にふさわしく生きる**ようにと主なる神さまから与えられている**掟**とは思わなくなってしまったのです。こうして、神の民が神の民でなくなっていきました。

預言者が次々と立てられ、神の裁きの警告を語りましたが、悔い改めが起こりません。遂に**国が滅びる**という**決定的な裁き**を受けることになったのでした。しかし神さまはその時に、エレミヤに 30 章から 33 章に記されている言葉を残らず巻物に書き記すようにお命じになりました。それが裁きと滅びの後にもたらされる**赦しと救いの預言**です。

## [2] 新しい契約とは

今日の聖書の箇所をもう一度読み返してみましよう。「見よ、わたしがイスラエルの家、ユダの家と**新しい契約を結ぶ日が来る**、と主は言われる。この契約は、かつてわたしが彼らの先祖の手を取ってエジプトの地から導き出したときに結んだものではない。わたしが彼らの主人であったにもかかわらず、彼らはこの契約を破った、と主は言われる」。

エジプトから救い出された時に結んで下さった、彼らを神の民とする契約を、彼らは破って、国が滅びるという厳しい裁きを受ける。しかし見よ、わたしがイスラエルの家、ユダの家と**新しい契約を結ぶ日が来る**、と主はおっしゃるのです。その新しい契約とはどのようなものでしょうか。それは石の板に書き記して、箱の中に納められているだけのものではなく、人々の**心にそれを記され**、彼らの**胸**

の中に授けられる契約なのだというのです。

契約の内容が変わるのではなく、**律法の与えられ方が変わる**のです。モーセを通して与えられた時は、石の板に律法が刻まれて、モーセに手渡され、彼が大切に山から持ち帰って、民たちに読み聞かせました。しかし来るべき日に主なる神がイスラエルの家と結んでくださる契約は、「律法を彼らの**胸の中に授け、彼らの心に記す**」ことにより、主が**彼らの神**となり彼らは**神の民**となるのだと、エレミヤは語りました。

「胸の中」とは原語は「内部」で新改訳は「彼らの中に置き、彼らの心にこれを書き記す」、フランチェスコ会訳は「彼らの内面にわたしの掟を置き、彼らの心にこれを書き記す」、この箇所は新約聖書のヘブライ人への手紙8章10節にも引用されています。「わたしの律法を、かれらの**思い**に置き、彼らの**心**にこれを書きつけよう」。これを英語の**欽定訳**では「思い」を **mind** (知性、理性、考え)、「心」を **heart** (心、愛情、勇気)と訳しています。すなわち **mind** と **heart** で、人間の**人格的内面性**を現している表現だということが分かります。

律法が外側から強制されるような与えられ方ではなく、私たちが**内面から揺り動かす力**として与えられるということでしょう。エルサレムの立派な神殿の至聖所の箱に安置されている律法に代わって、神の民一人ひとりの**人格的内面に授けられる律法**、これを**新しい契約**と言うのでしょうか。

### [3] 自発性の大切さ

以前のことが、フィンランド政府が15年がかりで**健康調査**をしました。40～45才の管理職を600人ずつ2グループに分け、**A グループ**はタバコ、アルコール、糖分の摂取を抑え、毎日運動し定期検査や栄養調査を受けました。**B グループ**はただ定期的に健康調査に回答を書き込むだけで、自由に生活します。

さて15年たってから二つのグループを比較したら、大きな違いが現れました。心臓血管系の病気・高血圧・死亡・自殺と、すべての項目で何と**B のグループ**の方が発生件数をはるかに少なかったのです。医師も保健省も驚いて、結果を直ぐに発表出来ませんでした。どうしたのでしょうか？

**B の600人**は健康管理は自分でと突き放されました。そこで自然と**自発的に**食べ過ぎ、飲み過ぎ、過労、運動不足を注意しました。**A の600人**も勿論自分で注意したでしょうが、医者や保健所が念入りに指導してくれるので、心理的にどこか**依存的**なところが出てきて、それが15年間に心身の抵抗力を弱める結果を生じたのでした。

健康で長生きするという目的も、保健所の働きかけでやるという**動機が外にある人**は、自分でよく注意するという**動機を内に持つ人**よりも、心も体も弱く、早死にが多かった——これは私たち人間にとって、**自発性**がどんなに大切であるかを教えてくれる貴重な調査でした。

#### [4] 十字架によってもたらされた新しい契約

主イエスは十字架につけられる前の晩に、過ぎ越しの食事を弟子たちと共になさいました。それが主にとって地上での**最後の食事**となりましたが、食事の終わりにブドウ酒の杯をとり、「この杯はわたしの血によって立てられる**新しい契約**である。飲む度にわたしの記念としてこのように行いなさい」(I コリント 11:25)とおっしゃいました、

ここで主はエレミヤが預言した**新しい契約**が、ご自分の血、すなわち**十字架の死**によって成立されると宣言されたのです。エレミヤが約600年前に預言した「**その日が来る**」とは、イエス・キリストが**十字架で死なれる日**だとおっしゃったのです。

また、神さまが望んでおられることを、私たちが自発的に喜んで行い、神の民として輝いて生きるという新しい生が、十字架の死によってもたらされるとおっしゃったのです。

「礼拝が7日以上も間が離れたら、心がとてももたない」という嬉しい言葉を聞きます。でも一方では「どうしても礼拝に出席する気持になれないから、しばらく休む」という言葉を聞くこともあります。信仰生活を送る**意欲がなえていく**時があるのです。

でも**ユダ**と**ペトロ**の違いを思い出しましょう。ユダは主イエスの逮捕の手引きをしてしまいました。ペトロは「何処までもお従いします」と誓いながら、その夜のうちに「イエスなど知らない」と三度も嘘をついて、我が身を守ろうとしました。ユダは**後悔して自殺**しました。ペトロは泣いて**悔い改め**、主につながり続けました。

神さまは私たちの**弱さ**、**罪深さ**をよく知っておられます。だからイエス・キリストを 救い主としてこの世に送って下さったのです。イエス・キリストが**私たちの罪の裁き**をご自分の身に引き受けて十字架にかかり、**執り成し**をして神の赦しを私たちにもたらしてくださいました。そのことをペトロは信じ、ユダは信じられなかったのです。

どんな罪も私たちが神さまから引き離すものではないこと、私たちの現実がどのようなものであっても、私たちは神の民として、**永遠の契約**(32:40)の中に立ち続けることを、イエス・キリストの十字架の血が保証しているのです。だから**どんな罪によっても破られない契約**が、十字架の死によってもたらされる——これを「わたしの血によって立てられる**新しい契約**」と主はおっしゃったのでした。

#### [結] 神を喜ぶ新しい心

主イエスは律法を二つにまとめられました。「**全身全霊をこめて主なる神を愛する**」「**隣人を自分のように愛する**」(マルコ 12:29~31)。しかし100のうちわずか1くらいしか出来ない自分を情けないと思います。自分を責め始めると、信仰生活から喜びがなくなっていく。でも主イエスは一つしか出来なかった愛を**責めるよりも喜んでくださり**、残りの99はご自分が引き受けてくださる救い主なのです。

それが分かったら、99やれなかった自分を責めるよりも、**1愛せたことを喜ぶ**ようになり、神さまの前に安心して立ち続けることができます。神さまをこのように**親密に覚える**ことができる心——これこそ**新しい心**ではないでしょうか。そしてこの新しい心を持つゆえに、新しい契約の中に生き続けることができるのです。**神の律法を喜び、自発的に守ろうとする日々**が生まれてくるのです。

エレミヤを立てて**新しい契約**がもたらされるという言葉聞かせてくださった神さまを**賛美**いたしましょう。私たちと新しい契約を結ぶために、イエス・キリストを救い主としてこの世に送って下さった、愛の神さまを**喜び**ましょう。

そして、十字架にかかって死に、新しい心を持つ**新しい人**に私たちを生まれ変わらせてくださる**救い**を備えてくださったイエス・キリストの**招き**に応える者になりましょう。

完